

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ミラノコルティナ冬季五輪は現地18日、フィギュアスケートのペア・フリースケーティングが行われ、三浦璃久/木原龍一組が158.13点をマーク。ショートプログラム5位からの巻き返しを狙った“りくりゅう”は冒頭の3ツイストリフトを完璧に成功させると続くサイドバイサイドジャンプも

揃えて着氷。序盤から2人の美しいユニゾンが観客の心を掴みました。最後のポーズを決めた瞬間、木原はリンクにうずくまり涙を流したのです。金メダルが確定すると2人は抱き合い、歓喜の涙を流した光景を見た時に涙が溢れたのは私だけではなく、日本中の皆様も同じだったと思います。世界最高得点を獲得した“りくりゅう”が日本フィギュア史に永遠に残る金色の一步を刻んだ事に、日本人として誇らしく思います。寒さが続いておりますが、皆様もご自愛ください。

サンライズの物語

挑戦する心は、母からの贈りもの

「個性を大切にしなさい」その一言が支えになった日々

その方は、小さい頃に障害を負ってしまいましたが、人生を一生懸命に生きて来られた方でした。

子供の頃は常に健常者にできる事ができずにもどかしい思いを目のあたりにしたり悔しい思いをしたと話されていたのです。

そんな時その方の母親が言ってくれた言葉「貴方に起こっている事は神様が自分に与えてくれたもの。上手くできない部分は挑戦して乗り越えなさい。自分の個性と価値観を大切にしなさい。自分の個性や価値観を大切にすることができれば、他人の個性や価値観を大切にできるよ。」と。

母の言葉が深く胸に刻まれ、今の自分の支えになったとの事でした。

親が小さい頃に子供に伝えた言葉・・・

私も小さい頃に父を亡くし母に育てられましたが、

いつも思い出すのは母の言葉です。思い出しては母の偉大さに涙が零れます。

どうか今親御さんが傍にいる時に感謝の言葉を伝えて欲しいと自分が後悔した経験から願って止みません。



サンライズのデイサービス陽光だより

カレンダー工作

各自、折り紙でヒヤシンスを作り、貼り付けてカレンダー工作をしました。



NEWS 今月のニュース

認知症でも「働ける」 選択肢を思いかなえる デイサービスの挑戦

テレビ朝日は「未来をここから」プロジェクトの一環でSDGs企画をお伝えします。24日は「働きがいも経済成長も」です。認知症になっても働きたい思いをかなえるデイサービス取材しました。自動車販売店で黙々と車を洗っているのは、従業員ではなく、認知症と診断されたデイサービスの利用者です。

東京・八王子市のデイサービスでは“認知症でも働きたい”という利用者に、働く場所を提供しています。

デイサービス利用者(64)「仕事がやりたいんですよ。生きがいですね、『何かをやりたい』それが一番」

ここでは、利用者のやりたいこと
の選択から1日が始まります。

デイサービス利用者「(Q.きょうは何をしますか?) 洗車」きょうのメニューは「洗車」と「地域へのチラシ配り」。
代表の守屋さんが、このサービスを始めたきっかけは…。

DAYS BLG! はちおうじ 守谷卓也代表「(以前勤めていた) デイサービスで当時66歳の男性と出会って、つまらないと。その人が楽しいと思えるデイサービスを作ろうと思って」

今では、認知症のことを地元の高校生などに知ってもらうための活動にも取り組んでいます。

デイサービス利用者(83)「買い物に行って帰るのにどっちが出口か入り口が分からなくなっちゃって。助けて下さい」

高校生「いつでも、いつでも」
高校1年生「(認知症で) 困っている人がいたら気付いて手伝えたらいいな」

認知症になる前までは当たり前

だった「働く」こと。

代表の守屋さんは決められたプログラムをこなすだけのデイサービスの在り方を変えたかったといいます。

守谷代表「利用者になってしまった途端に(選ぶ自由を)奪われてしまうということもおかしいことなので、認知症と診断されても今までと同じ暮らしが続けていける、そんな社会を目指していければいいなと思っています」



認知症でも働きたい

<熊本NEWS

2026年2月24日>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>